



はるあもりほい

●医療法人創和会広報誌はあもりにい / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和4年11月1日発行

管理を通して、 地域と職員の幸せの輪を広げる

研究所附属病院 看護部長 森安 香緒里



このたび看護部長を拝命いたしました森安です。これまでに色々な葛藤がありましたが、真摯に受けとめ取り組んで参ります。

我が国の高齢化は、世界に比べても例を見ない速いスピードで進んでいます。少子高齢化・多死社会・人口減少そして物価や光熱費の高騰など、社会情勢が刻々と変化する中、組織も変化しなければならないと痛感しています。

医療体制は、病院中心から地域・在宅へと変化しています。スタッフが看護の専門性、個人の持っている能力を発揮し、複数の疾患を抱えた患者さんの暮らしと医療を切り離さずに「その人らしく生きる」を支えていくこと、また提供する看護サービスの質を確保できるように、働きやすい環境を作ることが私の役目だと思っています。

社会の変化に伴い、これからさらに「チーム力」が重要となってきます。患者さん中心に職種・価値観の違う者同士が働くには、人によって物の見方が違うことを知り、相手を理解し、違いを尊重することが必要であり、そのためには対話を大事にしていかなければならないと思います。

私は、これまでも多くの人に支えられ助けてもらいながら働いてきました。一人ではできないことも、人の力を借りることで実現します。多くの力を1つにして、顧客（患者さん・ご家族、地域、そして職員）が求めていることを知り、地域への貢献、患者さんの喜び、そして全職員の幸せのために取り組んで参ります。

組織で働くには、共通の目的・協働意識・コミュニケーションが大切となります。創和会の理念「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」、そして看護部の「看護の対象となる全ての人を大切にし、温もりがある質の高い看護を提供します」の理念のもとに、職員一人ひとりが同じ方向を向き「人」を大切にし、お互いに支えあい行動する。そして患者家族や職員が「この病院に来て良かった」と思える様に、常に自分は何をするべきかを問い、行動に移し「良かった」をたくさん積み重ね、地域、患者家族、スタッフに愛される組織作りを目指していきたいと思えます。

創和会の理念とともに 充実した 34 年間

研究所附属病院 前看護部長 川口 法子

9月27日（火）西ふれあいセンターにて、研究所附属病院 看護部長として最後の公開講座の講師を務めさせていただきました。2014年から毎年、「人生100年時代を生きる」をメインテーマに、住み慣れた地域で安心した日常が送れる知恵袋のお話しをさせていただき、地域の皆さんとのつながりを感じる貴重な時間を過ごせたことに感謝をしています。

今回のテーマは「ACP」。研究所附属病院の34年間で振り返り、20年近く透析看護に携わることで多くの患者さんから学び得た「生きること」を伝えたい。創和会の理念を大切に育むことができる職員が、地域の皆さんの生活をサポートし支える存在で居ることを伝えたい。そして穏やかな最期を迎えるための準備が自分らしく生きることにつながる。元気なときにこそ気持ちを伝えよう、私が実姉の最期を悔やみ続けていることもあり自分も大切な人達も悔やまない人生にしていきたいと思います、と数々の想いを込めて講座を終了しました。

私は、1988年9月 研究所附属病院に入職し内科・小児科病棟での勤務がスタートしました。まだ若い透析患者さんから透析に関する質問の毎日。「川口さん、Pって、Kって、PTHって、J、腎臓の働き？とにかく聞かれることを調べ、返答を繰り返す日々。徐々に質問ではなく不安に思っていることや相談を言葉に出されるようになったとき、心で「ヨシ！」とガッツポーズをした瞬間。ある時、2人の患児から、手のひらいっぱいのにせ薬が出された時「何の薬かわかる？これはプレドニンよ、顔が



▲最後の公開講座

膨れているのはそのせいなの。この血圧の薬飲んだら顔がポーっと熱くなるのよ」、次々に薬剤名、効能、副作用を教えてくれ、私にとって腎臓病克服の一番師匠でした。また、生涯続く透析治療と入退院を繰り返す成長過程でも明るく前向きに将来に進む姿に勇気づけられました。しかし、透析効率も十分とはいえない時代に患者さんの中には「透析をすることが苦痛で苦痛で仕方ない」「若い時に定期健診を受けていたら」と悔やまれる声に上手に答えが出せない。その時にもっと透析の勉強をして患者さんの声に応えたいと透析室へ異動をしました。

1992年当時の透析室では、スタッフが圧計算をしながらダイヤルを回し除水設定をしていました。昼近くになると大半の患者さんの血圧が下がり、一斉に下肢拳上（半端ない角度で頭から転落



▲ミャンマーで透析セミナーの講師をさせていただきました

するかもくらい)の風景を覚えています。現在の
ような安定した透析治療ではありませんでした。
「食べんと仕事もたんがな!わかつとる!」「わ
しら~機械に生かされとんじゃ。何の楽しみがあ
るんな。おまえがここに寝て針刺されて透析やっ
てみい。気持ちがわかるわ」、この時から一人ひ
とりの患者さんとの出会いを大切に「生きること
と命の大切さ」に寄り添える透析看護師になりた
いと励みました。

34年間を何度振り返っても、私の原点となっ
たのは透析看護。ミャンマーで透析セミナーの講
師ができたことも含め、やり遂げたいことが誠心
誠意の努力で叶えられる研究所附属病院に感謝で
した。2010年から副看護部長、2013年から看
護部長の任務に就かせていただきました。病院事
業目標達成に向け、多職種の皆さんと共に取り組
めたこと、達成するために其々の専門職が協働を
惜しまずに全力を尽くし、いつも逆転優勝ができ

る素晴らしい
チームであっ
たことに心か
ら敬意と感謝
を表します。

看護部が森
安看護部長、
長尾副看護部
長の下、益々
飛躍する新
体制となりま
す。私は研究
所附属病院を
愛してやまな
い元職員の1
人として、今
後の皆さまの
ご活躍をお祈
り申し上げます。



▲長尾副看護部長と一緒に

重井 医学研究所研究業績集が完成

～開所から43年間の歴史～

創和会本部 経営管理部 友野 靖子

このたび重井医学研究所研究業績集が完成し
ました。研究業績集作成という、重井理事長か
らの使命をいただいたのが1年前。私は重井医学
研究所の開所3年目に入職し昨年定年退職しま
したが、研究所在籍期間が最も長く、ほとんどの
歴史を知っているだろうと期待していただいたと
考え、その任務の重さを感じて編纂を開始しま
した。

業績集というと立派な表紙の書籍が並ぶイメ
ージですが、今の時代必要とされているのは、現
在ある資料をもとに業績をデジタル化して残すこ
とだと考えました。そのために行ったことは論文
のデータベース化とPDF化でした。幸いにも創和
会では1979年より重井医学年報を発刊し、また
研究所では1995年までの論文が製本されてお
りました。これらをもとに、オンライン論文検索シ
ステムPubMedを利用して情報を付け加えました。
またこれまで在籍の研究者の方々にお尋ねして、
業績に漏れのないようにしました。

最終的に703編の業績をリスト化し、2022年

10月、研
究所ホー
ムページ

上に掲載することができました。また各々の業績
のPDFは研究所で所有しており、要望があれば提
供できるようになっています。サイトでは業績が
年代別に分けられており、キーワード検索も可能
で、非常に閲覧しやすくなっています。たくさん
の方々のみていただけたら幸いです。

今私は、これまで研究所に在籍された方々の多
大な業績を半永久的に残せたことでもとても安堵し
ております。資料をまとめながら皆さまの顔が浮
かび、また研究所の数々の歴史を思い返すことが
できました。

このような機会を与えてくださ
った重井理事長はじめ創和会の方々、
また編纂にご協力くださった友野印
刷の方々、研究所附属病院 図書室 川
上さんに深謝いたします。



▲重井医学研究所
研究業績集はこ
ちらからご覧く
ださい

コグニサイズ

～講演会&体験会を開催・YouTube も公開中～



▲しげい病院の
YouTube チャン
ネルはこちら

しげい病院 リハビリテーション部 作業療法士 郷原 慎吾

今年の5月12日（木）からはあもにい倉敷と共催のコグニサイズ講座を開講し、10月6日（木）から、第2クール目がスタートすることになりました。

コグニサイズとは、愛知県にある国立長寿医療研究センターが開発した、脳と体を同時に使うことで認知症の予防効果を実証したプログラムです。本講座は、日本認知症学会専門医である辻脳神経内科部長監修のもと、最近もの忘れや体力の衰えが気になる方を対象にコグニサイズを中心とした、多面的な運動プログラムを気軽に楽しんでいただきながら、認知機能の維持向上と体力増進・フレイル予防を目指します。

開講に先駆けて、9月18日（日）に辻脳神経内科部長による開講記念講演、9月25日（日）にコグニサイズ講座の無料体験会を開催しました。

いずれも多くの方々にお申し込みいただき、特に9月25日の無料体験会ではキャンセル待ちができるほどでした。お気付きの方はいらっしゃると思いますが、広報くらしき9月号の裏表紙に本講座の情報が掲載されており、それを見て申し込まれた方が多くを占めていました。

体験会運営に関しては、実際に講座で活用する認知機能検査や体力測定、筋トシ、有酸素運動、コグニサイズを参加者の方々に経験していただきました。参加人数が1クール目の倍だったため、同じ会場でも運用方法を変える必要がありましたが、1クール目の経験や反省点を活かし、よりスムーズかつ参加者の方々に楽しんでもらいながら運営することができました。

参加者からは「すごく楽しく運動ができました。」「楽しく続けられそうだから講座の申し込みをしたい。」など多くの好評をいただきました。コグニサイズは継続することが最も大切なため、辻脳神経内科部長、看護部の土師主任、リハビリテーション部の西濱室長、はあもにい倉敷の池田トレーナーと協力し参加される方々が楽しみながら最後まで継続できるような講座運営に取り組んでいきたいと思えます。

一方で9月2日（金）に YouTube のしげい病院アカウントに簡単なコグニサイズの動画を投稿しました。撮影は、リハビリテーション部の認知症チームに協力を得ながら、個別で行えるコグニサイズと集団で行えるコグニサイズを行い、緊張しながらも楽しく臨めました。早速、院内で多くのスタッフから「動画見たよ。」とお声かけをいただき、励みになっています。

本動画をきっかけに、認知症予防に対するコグニサイズの重要性や知名度の向上を図れたらと思います。



▲辻脳神経内科部長による講演会の様子



▲無料体験会も大好評でした

2022年度 看護部夜間想定避難訓練

しげい病院 看護部 課長 守屋 由美

9月14日（水）、夜間想定避難訓練を行いました。

昨年より訓練のスタイルを変更し、災害対策委員以外の参加者は打ち合わせなしで、アクションカードを使用し訓練に臨んでいます。状況設定の説明を聞き、自身の配役を確認したのち、セリフはアドリブで、行動はアクションカードに沿って行いました。アクションカードを知らなかった職員も、知ってはいたけれど使ったことがなかった職員も、「いざ火事に遭遇したら…」を考える、良い訓練となりました。

訓練の後、グループに分かれディスカッションを行いました。「アクションカードを使用することで、すべきことが明記されており、パニックにならず良かった」、「応援に来た看護師は病棟の配置が分からないため、アクションカードの裏に病棟MAPをつけてはどうか」等、アクションカードを使用した訓練ならではの意見が聞かれ、今後の課題も明確になりました。

また、秋空の下、消火器（水消火器）を実際に放射する訓練も行い、「初めて消火器を使ったが、

実際に使用したことで自信に繋がった」等の声が聞かれました。

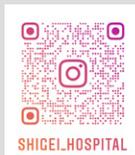
参加した職員と委員は、今年度中に自部署においてアクションカードを使用した訓練を実施する予定です。防災意識を高め、いざという時に焦らず対応できるよう今後も訓練を継続していきます。

訓練の様子をしげい病院のSNSにあげたところ、Facebook「いいね賞」*と「リーチ賞」*、Instagram「いいね賞」*の3冠を達成しました。

※しげい病院では、「いいね」と「リーチ」が多かった投稿を、毎月表彰しています。



▲しげい病院 Facebook



▲しげい病院 Instagram



▲配役のゼッケンを着用し、状況設定を聞きます。自分がどう動くかイメージしていきます。



▲リーダーの看護師がアクションカードを渡し、指示をします。



▲患者さんを安全に、避難誘導していきます。



▲患者役にも熱が入ります！



▲「火事を発見！初期消火をします!!」



▲いざという時にスムーズな初期消火ができるよう、実際に放射する訓練。（水消火器を使用）

血管撮影装置が更新されました

しげい病院 放射線部 副主任 松本 佑介



この度、シャント PTA 治療に特化した血管撮影装置が、9月21日（水）より稼働し始めました。

今までの汎用機では、ポジショニングの自由度が低く、位置決めのために患者さんに検査台の上で動いていただくなど、負担をおかけすることがありました。更新された装置はCアーム型の血管撮影システムとなっており、装置の動きのみでスピーディなポジショニングや検査、手技が行えるようになります。

低被ばく、高画質をコンセプトにした画像処理システムが搭載され、患者さんの負担を低減するアプリケーション機能が搭載されています。一度で広い範囲を造影でき、体動によるアーチファク

トが発生しないため再撮影の必要がありません。

術者の手技も行いやすくなり、より低侵襲（低線量・造影剤量低減）な治療を行えるようになります。また床・壁・天井が刷新され、圧迫感のない清潔感のある部屋となりました。

機器の選定においては、森本副院長、熊代先生、小畑先生にご指導いただきました。また、装置搬入、接続、部屋のコーディネートに関して、総務課、臨床工学部、IT 推進・情報管理室の皆さんにご協力いただきました。

今回の新しい装置稼働により、PTA 治療の推進に寄与し、より患者さんの負担軽減に努めてまいります。

消火技術訓練大会

～数コマ差の戦いの末に
勝ち取った準優勝～

研究所附属病院 看護部 入院棟3階 木戸 晴翔
研究所附属病院 看護部 入院棟1階 永島 海斗

9月28日（水）に、第41回消火技術訓練大会が岡山市消防教育訓練センターで開催され、今年は消火器の部で消火技術を競い合いました。

研究所附属病院では、1か月前から監督の小笠原さん（事務部）、隊長の木戸と隊員の永島が練習し、消火器の男子の部に出場しました。男子の部は出場チームが多く、強豪揃い。ですが、これまで何度も出場し経験を培ってきた小笠原監督の指導のおかげで、正確な規律と安全性を伴った迅速な操作を落ち着いて実践することができました。その甲斐もあり、自分たちのベストタイムでミスなく終わることができました。

結果は、惜しくも僅差でライバルのチームに優勝を持っていかれ、準優勝という結果に終わりました。僕たちは優勝したと確信していましたが、表彰式では準優勝で名前が呼ばれてしまいまし



た。結果はそう甘くはありませんでした。しかし、僕たちはこの結果に悔いはありません。最初は優勝できなかったことで落ち込んでいましたが、「初めての参加で準優勝という結果は素晴らしい」と周りの方から声をかけていただき、嬉しかったし自信もつきました。今回の参加で、消火に対する迅速な操作、規律ある行動の大切さを実感しました。

お忙しい中、出場に理解を示していただいた事務部長を始め、ご協力をいただいた小笠原監督と職場の皆さんに感謝をしつつ、今後もこの結果に恥じぬよう、防火・防災に努めて参りたいと思います。

エントランススタッフが 皆さまをお出迎え

しげい病院 医療支援部 課長 河原 秀明

10月1日（土）より新しい取り組みとして、ご来院の皆さまが安全に入館できるよう、玄関周りでのサポートを行うために、スタッフの常駐がスタートしました。

他の医療機関でも実績のあるサマンサジャパン株式会社と業務委託契約を締結し、スタッフの名称を「エントランススタッフ」としました。月曜日から土曜日（日曜日・年末年始を除く）の8:00～16:00の間（休憩時間を除く）でサポートを行います。

エントランススタッフは玄関での乗車・降車のサポートや、車いすの準備、総合受付までの誘導、荷物の多い場合にはカートに荷物を乗せて受付まで運ぶといった、病院玄関から受付エリアまでのお手伝いを行います。患者さんの様子がいつもと違う場合は、病院スタッフに連絡し看護師に繋がります。また、発熱外来など玄関付近で迷われている方の誘導も行います。介護サービス車が到着す



ると、車いすをタイミング良く出すといったサービスはとても好評です。

エントランススタッフは患者さんから「玄関に来てくれたら安心するわ」「ホテルやデパートみたいですね」「大変だけど頑張ってるね」など、挨拶以外にもたくさん声をかけていただいているようで、良好なコミュニケーションが取れている様子が伝わってきます。一方では患者さんからいただいた病院に対するご指摘や課題は、エントランススタッフから病院に報告してもらうことで、業務改善への第一歩となっています。

業務がスタートしたばかりで不慣れな点もあるかもしれませんが、エントランススタッフをこれからどうぞよろしくお願いいたします。

しげい病院の 「メモリアルツリー」

創和会本部 経営管理部 服部 新生

皆さん、しげい病院の本館と南館の間に立つ2本の巨木、ヒマラヤスギについてご存知でしょうか。この木は、今から約60年前、重井病院設立の時に、倉敷駅北にあった当時のクラボウ工場から馬車で運び移植したとのこと。そして理事長曰く、1本は重井鹿治総務理事（現理事長の祖父）、もう1本は重井博前理事長とのことです。22年前の南館建築の際にも“邪魔になる”この木を倒すことなく工事を行ったことも懐かしい思い出とのことでした。

今年9月に発生した台風14号は大きな勢力を保ったまま倉敷に接近しましたが、このスギの木もその強風で、まさかと思うようなかなり太い枝



▲写真は隣接する岡山地方務局倉敷支所駐車場より撮影

が折れ、落下しかけるといふ被害を受けました。幸い事故にはつながらなかったのですが、これからは定期的にメンテナンスを行い、危険を予防していきます。

この2本のスギの木を大切にすることで、この先も創和会の成長を見守ってくれることと思います。

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「里山に実る秋果を楽しむ」

日時：11月26日（土）

10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

昇格発令（令和4年11月1日付）

研究所附属病院

看護部長 兼ねて 地域連携部長

森安香緒里



編集後記

●どうやら私は所得税が未納になっているらしく、税務署からの督促メールが届くようになりました。いつから滞納しているのかは分かりませんが、納付の最終期限がメール受信当日で支払日延長は不可とのこと。キビシー。見落としても大丈夫なように送金元を変えて毎日何通も送ってくれます。所得税は源泉徴収されているのでこの国の所得税なのかは謎です。たしかに税金は払っていますが、税金は払った記憶がありません。そういえば口座を持っていない銀行や、作ったことのないクレジットカード会社からもよく入力や支払いを求められます。放置すると取引が停止するらしいです。恐ろしいですね。ということで皆さん詐欺メールには気を付けましょう。（MK）

●今年度の目標をダイエットと決めて、早数か月。近所に24時間制のジムができたので、初めてジムに通うことにしました。パーソナルジムではなく、個人個人が好きなことを好きなようにできるので、学生時代のトレーニングを思い出しながらトレーニングを始めました。始めた当初は久しぶりに体を動かすのが楽しくて、週に3回ぐらい通っていたのですが、今では月に数回いくかどうか。今年もあと2か月になりました。涼しくなり、運動には最適な気候になってきたので、また気合を入れ直して頑張りたいと思います。今の目標は、再来年の吉備路マラソンに出場できるぐらいの体力をつけることです。（KM）

「心理的安全性とは」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

心理的安全性（psychological safety）とは1999年にハーバード大学で組織行動学を研究するエドモンドソンが提唱したのですが、2016年に米グーグルが「生産性の高いチームは心理的安全性が高い」との研究成果を発表してから注目を集めるようになりました。少なくとも日本では驚きを持って受け取られたように思います。優秀なリーダーがぐいぐい引っ張っていくとか、成果主義を導入し社員を競争させるとか、作業の効率を上げるといったことが生産性向上につながると思っていた経営者や管理職が多かったからかもしれません。

米グーグルは2012年から「プロジェクト・アリストテレス」という生産性向上計画の一環で、自社の数百にも及ぶチームを分析し、生産性が高い働き方をしているチームの特徴を明らかにしました。もっとも重要なのは「誰がチームのメンバーであるか」よりも「チームがどのように協力しているか」ということがわかったのです。その因子を表に示します。

心理的安全性	自分の考えや気持ちを安心して発言できる
相互信頼	メンバーは仕事を高いクオリティで仕上げてくれると感じる
構造と明確さ	チームの役割、計画、目標が明確
仕事の意味	仕事が自分にとって意味があると感じている
インパクト	自分の仕事が意義があり、良い変化を生むと思っている

▲生産性の高いチームの特徴

中でも重要なのが心理的安全性です。心理的安全性とは、職場で自分の考えや気持ちを安心して発言できることを指します。今までに、「そんなことも知らないのか」「仕事ができないやつだな」「批判をするな」「余計なことを言うな」などと言われることを恐れ、言いたいことを言わずに過ごしてしまったことはありませんか？心理的安全性の高いチームのメンバーは、わからないことを質問したり、違うと思ったことを指摘したり、自分の過ちを認めても、責められたりバカにされたりしないことがわかっています。

心理的安全性の高いチームのメンバーは離職率が低く、他のチームメンバーが発案した多様なアイデアをうまく利用することができ、収益性が高く、「効果的に働く」とマネージャーから評価される機会が2倍多いという結果になったとのことです。自分の弱い部分を見せられる、あるいは互いに認めることができる組織の生産性はなぜ高いのでしょうか。まずコミュニケーションが活発になり、情報交換がスムーズになります。仕事のミスも共有しやすくなり、事態が悪くなる前に手が打って無駄が省けますし、損失も防げます。また自分が責められないとわかれば仕事に積極的に取り組み、冒険することもでき、新しいアイデアなども生まれやすくなるでしょう。そして仕事の効率や業績が向上し、自信も高まるのです。心理的安全性をキーワードに、あなたのチームを一度見直してみませんか。

資料：「効果的なチームとは何か」を知る

<https://rework.withgoogle.com/jp/guides/understanding-team-effectiveness/steps/introduction/>

※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。



生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207